

木地夜鷹山

齋藤 美和子

- 山行年月日:2019年11月4日
- メンバー:齋藤美和子 大竹尚子
- コースタイム:登山口(7:20)～長谷川標高500m分岐(8:20)～スラブ入り口(10:00)～稜線(11:55)～山頂(12:05)～百戸沼(13:15)～登山口(14:25)

尚子さんと木地夜鷹山のスラブを登りに行くこととなった。野沢から西方街道を通り、落合部落をめざす。百戸沼、黒男山、木地夜鷹山はこちらと看板あり。最後の大滝集落はもう2件しか人の気配がなかった。昔、蕎麦屋をやっていた、食べたことがあったおうちも、空き家になっていた。奥に向かう林道は舗装されていた。黒男山と木地夜鷹山の分岐で駐車。ここから少し歩くと長谷川にぶつかる。これを横切り沢沿いの道を

進む。百戸沼との分岐までは長谷川を4回渡渉した。秋の恵みを期待したがなにもない。ここから沢歩きになる。水は冷たいが、美しい。周りの紅葉も盛りを少し過ぎたところであるが、日が差すと美しく輝く。1m位の滝が2-3個。その後ゴルジュもあったが、水が多くないので、大丈夫。そして、この岩は滑らない。いわなもいた。分岐部を右にとり遡行を続けると、水が枯れ藪になった。最後の分岐は左。藪を抜けるとスラブ。傾斜は緩く感じた。尚子さん先頭。スラブとブッシュの混在。スラブは歩いて行けるが登れなくなるとブッシュに逃げた。でも、そうこうしているうちに登れないところでた。向かいのブッシュに逃げようとなったが、その間のトラバースが出来ない。よく見ると岩の間に草がついている。これを行くしかな



スラブ途中からの景色

い。でも、落ちたら死んじゃう。下ることもできない。気合を入れて草をつかんで 5m位を登った。喉がカラカラになった。でも、登ってしまえば恐怖心は消える。ここまでればあとは稜線。稜線はしっかりとした踏み跡。少し進むと山頂であった。ここで 12 時。やっぱり山頂はいい。360 度の景色。目の前には黒男山、反対側は、スラブの夜鷹山、台倉山。少し休んで下山。下山は急でトラロープあり。百戸沼に向かうまでは転びながら下る。このブナは黄檗で、美林

である。なめこは 1 か所しかなかった。百戸沼は 15 年前来た時と全く違う様相で藪になってしまっていて百戸沼からの下山道がわからなくなった。でも、冷静に周りを見て帰り道を見つけた。そしてルンルンで戻った。尚子さんありがとうございました。またお願いします。



百戸沼から見た木地夜鷹山

